

第 23 回米百俵賞特別賞受賞

(令和元年 6 月 15 日表彰)

荒川 勝巳 (ケニア共和国)



ケニアの貧困家庭の子どもたちのために、児童養護施設、幼稚園、小学校を開設するとともに、自立のための裁縫教室、縫製工房を開設し教育を行った。

■受賞時プロフィール

荒川氏は、昭和 60 年、ケニアとの関わりを持った。その後、ケニアの児童養護施設でボランティアとして働いたあと、ケニアの貧困家庭の子どもたちの支援のため、ケニア人の友人 2 名と NGO 「サイディア・フラハ」を平成 5 年に設立した。

同年、ケニアに幼稚園を開設。近隣のスラムの子どもたちを対象にし、授業料が低額でありながら質の高い就学前教育を行っている。現在 70 名が在籍し、300 名が卒業している。

平成 8 年には児童養護施設を開設。ケニアでは親が病気等で亡くなり、子ども

たちがあとに残されるケースが少なくない。施設では、両親を亡くし十分な養育を受けることのできない 3 歳から 18 歳までの子どもたちを保護養育している。現在 15 名が在籍し、60 名が卒業した。

また、同年、裁縫教室を開設。高校へ行く機会がなく低待遇の職に就いている女性を対象に、裁縫技術の訓練を行っ



▲平成 23 年に開設した縫製工房の様子

ている。現在 13 名が在籍し、550 名が卒業。卒業生の多くは繊維産業の会社に就職している。平成 23 年には縫製工房を開設し、より高い技術の習得を支援している。

平成 26 年には小学校を開校。体育・美術・読み聞かせなどにも力を入れ、人格形成を目指す教育を行っている。設立 5 年で 110 名の児童が在籍している。

児童養護施設、幼稚園、小学校を開設し養育・教育を行うとともに、自立のための裁縫教室等により技術訓練を行うなど、長きにわたり、ケニアの子どもたちの将来を見据えた人材育成に取り組んでいる。

■受賞後の活動

令和 2 年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、児童養護施設、幼稚園、小学校、裁縫教室、縫製工房は 3 月から一時休止となった。しかし、令和 3 年 1 月からこれらの活動を再開。令和 4 年 1 月現在、氏はケニアに滞在しながらプロジェクト活動を続けている。

ケニアでは現在、これまでの小学校 8 年、高校 4 年、大学 4 年から小学校 6 年、中学校 3 年、高校 3 年、大学 3 年に学校制度の改革が検討されている。これに伴い、氏は小学校に加え、中学校も設立したいと展望を語っている。



▲荒川氏とケニアの子どもたち